

小説「新・人間革命」に学ぶ



① イギリス・ロンドン — 弱い心に負けない 君ならできる

1960年10月2日に始まった池田先生の海外訪問は54カ国・地域に。日本とは言語や思想、文化が異なる中、先生が各地のメンバーを励ますために大切にしたのは、御書をひもとくことでした。

ALL IN THE

—— オール・イン・ザ・ゴシヨ ——

GOSHO

全ては御書に書かれている

イギリスSGI（創価学会インタナショナル）
の草創のメンバーは、この先生の一言を胸に、
これまで前進してきたと語っています。

10
以上

御書の翻訳数。

英語、中国語、
スペイン語、
フランス語、
韓国語、
ポルトガル語、
ドイツ語、
イタリア語など。



小説『新・人間革命』第5巻「開道」

イギリス・ロンドン

1961年10月

1961年10月、山本伸一は初となるイギリス訪問を終え、次の訪問地であるスペインに向かうため、ロンドンの空港へ。



創価学会のロンドンの連絡責任者

シズコ・グラントが見送りに

- 3年前、広島の呉で入会
- 7カ月前、夫の仕事の関係でイギリスに移住
- 見知らぬ土地、言葉も思うように通じない
- 当時、イギリスにいる学会員は、4、5人

イギリス・ロンドン

山本
伸一

空港待合室（1961年10月）

励まし合える友人も、指導してくれる先輩もいないところで、信心を続けるのは大変なことだ。歓喜し、決意に燃えている時はよいが、ともすれば自分に負け、ついつい惰性化してしまうのが人間の常です。

イギリス・ロンドン

山本
伸一

空港待合室（1961年10月）

しかし、御書には『**心の師とはなるとも心を師とせざれ**』（**1025 ページ**）と仰せです。自分の弱い心に負け、弱い心を師として従ってはならない。

その時に、帰るべき原点が御書です。御書こそが、心の師となる。ゆえに、教学が大切になります。

伸一は、さらに「今日は、この時間を使って、
教学の試験をしよう」と提案。同行の幹部に設
問を考えさせ、その場で急ぎよ、たった一人の
ための即席の「教学試験」を実施しました。

実は、数日前、シズコ・グラントは伸一に会い、知り合いもいない中、「寂しくてなりません」と語っていました。伸一は、彼女がイギリスにいるのは仏法の視点から見れば偶然ではないことを伝え、その深い使命を自覚するには、御書をひもといていくことが大切だと語っていたのです。

- あなたなら、シズコ・グラントにどんな言葉を掛けますか？
- 山本伸一は、どんな気持ちでこの御文（心の師とはなるとも心を師とせざれ）をシズコ・グラントに引いたと思いますか？

弱い心には負けない

君ならできる

心の師とはなるとも心を師とせざれ——この御文はそもそも、日蓮大聖人が六波羅蜜經の巻第7などの経典から引用した言葉。経典では、常に縁に紛動えんされては揺れ動いてしまう人間の心のことを、「狂暴な象」にたとえています。

荒れ狂う動物的な自己中心の心を、どう律し、コントロールしていけばいいのか。池田先生は、「仏道修行は『法』が中心である。『自分が中心ではない』」（『池田大作全集』第70巻）と述べ、信心に励めば、自分の弱い心に必ず打ち勝っていけることを教えてくださっています。

【参考文献】

- ◎『新・人間革命』第5巻（聖教新聞社）
- ◎『民衆こそ王者 池田大作とその時代 14
「トインビーとの対話」篇』（潮出版社）